

ご存知ですか？「根管治療」

神経をとる！ って、どういうこと？

皆さんは「歯の神経をとる」という言葉を聞いたことがあると思います。しかし実際には、「とっておしまい」というわけではなく、むしろとってからの処置が重要かつ複雑。そこで、「神経をとる」ことの意味とその処置についてご紹介します。

むし歯が進行してしまうと…

歯には根管と呼ばれる管があり、その中に歯髄が入っています。この歯髄がいわゆる「神経」。むし歯が大きく進行し細菌が神経に侵されると、とても強く痛むようになります。これを放っておくと、歯がボロボロになり、感染は顎にまで広がって、最悪の場合、歯を支える顎の骨が溶けてしまうことも…。そうなる前に、感染拡大を防ぎ、歯を守るために行うのが「神経をとる」治療です。



少しでも細菌が残っていると、また痛みがでてきます



ただ神経をとるだけじゃない

実は、神経をとるといっても、簡単にとれるわけではありません。細菌に感染した神経が根管内に少しでも残っていれば、また感染が広がり痛みが生じます。また、神経をとり除いてもそこにしっかり薬を詰めなければ、やはりまた感染してしまいます。そして、薬を詰めるには根管の形を整える必要も…。これら一連の処置を「根管治療」と呼びます。

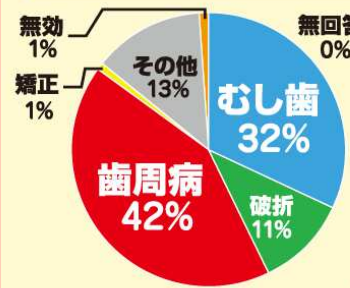
こんなに大変な「根管治療」

根管治療はとても複雑な治療です。根管は直径 0.1mm 以下のものもあれば、曲がっていたり枝分かれしていたりと複雑です。実は、海外では神経が細菌に侵された場合、「根管治療」ではなく「拔牙」を選択することが珍しくありません。そもそも「根管治療」が保険で認められていない国が多く、1本10万円以上の治療費がかかることも！その点日本では保険制度で認められており、むやみに歯を抜かずにすんでいるのです。

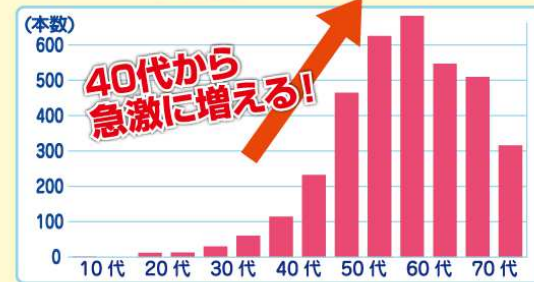


根管治療は非常に繊密な治療のため、時間がかかる場合もありますが、歯を守るための大切な処置ですので、ぜひ最後まで通院いただきますようよろしくお願いします。

グラフ① 抜歯の主原因(全体)



また、グラフ②を見てみると、年齢を重ねることに歯周病で歯を失っていることがわかります。65才以降が減少傾向なのは、それまでに抜けてしまっ、すでに歯が少なくなっているから。決して歯周病のリスクが下がったわけではありません。



グラフ② 歯周病による抜歯数(年齢階級別、実数)

グラフ①、②出典：永久歯の抜歯原因調査報告書 8020推進財団 2005.

むし歯が1位では
ありません！

歯を失う原因は？

手遅れに
なる前に！

歯を失う前に
知っておこう！

どの歯が失いやすい？

一番失いやすい
歯は奥歯です！

歯は前歯よりも奥歯の方が失いやすく、65才〜74才では半数以上が、75才〜84才では70%以上の方が奥歯(前から6番目、7番目の歯)を失っています。奥歯でしっかりと噛めない食生活がともつらくなり、成人の80%以上がかかっているといわれます。しかし、初期段階の自覚症状が少ない

ために自分でそうとは気づいていない「隠れ歯周病」の方がたくさんいます。

歯がぐらつくなどの明らかな症状が出た時にはすでにかなり進行した状態といえます。そうなる前に、30才以上の方はまず1度、歯周病検査を受けていただくことを強くおすすめします。



間違い探し「ひな祭り」

